

避難の心得

風水害編

風水害の危険から身を守るには、
日頃から地域の危険箇所を把握しておくことが一番大切です。



台風や大雨のとき

- ・ 梅雨前線や台風シーズンなどには、天気予報に注意
- ・ 危険だと思ったら早めに避難
- ・ 避難場所までの経路をあらかじめ確かめておく
- ・ 事前に、雨戸や雨樋などがつまっていないか確認
- ・ 物干し竿や植木鉢などは室内に取り込む
- ・ 浸水の危険のあるところでは、食料品、衣類、寝具などを上階へ
- ・ 腰まで水深があるときは無理をせず、高いところで救助を待つ
(※洪水時に歩ける水深は 50～70cm までです。)



避難するときの 八か条



- | | |
|-------------|----------------|
| ①安全な避難路の確認 | ⑤危険なところには近づかない |
| ②正確な情報収集 | ⑥屋外が危険なときは屋内待避 |
| ③避難の呼びかけに注意 | ⑦動きやすい格好、二人以上で |
| ④早めの避難 | ⑧お年寄りなどの避難に協力を |

避難の心得

地震編

★ 家のなかにいるとき

- ・まず、自分と家族の安全を確保
- ・あわてて戸外に飛び出さない、出口を確保
- ・早く火を消し、ガスの元栓をしめる
- ・ガラスが落ちているかもしれないので、裸足で歩かない
- ・正しい情報をラジオ、テレビなどから入手
- ・各種警報などに注意し、速やかに避難
- ・避難の時は、自主防災会などの指示に従う



★ 屋外にいるとき

- ・ブロック塀や電柱などから離れる
- ・落下物から頭を守るために、カバンなどで頭を守る
- ・車の運転中は速やかに安全な場所に停車
- ・車を離れて避難するときは、キーはつけたままドアロックしない
- ・海岸から避難



★ 勤め先やお店などにいるとき

- ・ショーケース、本棚などから離れ、頭を保護
- ・避難には階段を使い、慌てずに出口へ

